中韓の外国語大学における日本語専攻のカリキュラムの比較研究

日语专业本科课程的国际比较研究

——以中韩外国语大学为例

席娜 著

南開大學出版社

日语专业本科课程的国际比较研究

——以中韩外国语大学为例

中韓の外国語大学における日本語専攻の

カリキュラムの比較研究

席　娜　著

南开大学出版社

天　津

图书在版编目(CIP)数据

日语专业本科课程的国际比较研究：以中韩外国语大学为例：日文 / 席娜著. —天津：南开大学出版社，2014.8
ISBN 978-7-310-04543-3

Ⅰ.①日… Ⅱ.①席… Ⅲ.①高等学校—日语—课程—设置—对比研究—中国、韩国—日文 Ⅳ.①H369.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2014)第 155559 号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行
出版人：孙克强
地址：天津市南开区卫津路 94 号 邮政编码：300071
营销部电话：(022)23508339 23500755
营销部传真：(022)23508542 邮购部电话：(022)23502200

*

天津市蓟县宏图印务有限公司印刷
全国各地新华书店经销

*

2014 年 8 月第 1 版 2014 年 8 月第 1 次印刷
210×148 毫米 32 开本 7.75 印张 2 插页 194 千字
定价：22.00 元

如遇图书印装质量问题，请与本社营销部联系调换，电话：(022)23507125

序1

中国的本科专业日语教学，在经历了质量和数量迅速发展的阶段后，正迎来了新的稳定的发展时期。如何在原有的基础上，走内涵发展的道路成为日语教学界的重要课题。比较国内外日语课程设置和教学内容，进而加深对中国日语教学改革的思考，对于审视中国日语教学的现状，提出切合实际的内涵发展道路方略极为重要。

席娜的专著《日语专业本科课程的国际比较研究——以中韩外国语大学为例》是进行日语课程设置中外比较的重要尝试之一。本书以世界上两大日语教育大国的外语院校的课程设置为比较对象，通过日语专业本科课程的国际比较研究，力图探索中韩两国在大学日语专业课程设置方面的共同点和相异点，找出我国高校日语专业内涵发展中的课程设置的问题所在，取长补短，相互借鉴，为我国高校日语专业课程设置的充实化和合理性以及教育水准的提高提供可参考性意见。此外，本书的研究成果还可以为今后海外日语学习发达国家之间的相互交流以及日语专业人才共同培养模式的开发提供可行性建议。本书是席娜在博士论文基础上精心修改后成书的。在韩国釜山外国语大学攻读博士学位期间，席娜在导师郑起勇教授的指导下，在中韩进行了大量的调研，获得了较为详实的数据，并在此基础上完成了论文写作。

21世纪专业外语人才的培养模式，要在吸收传统经验的基础上，充分考虑信息化社会和全球化需要，在课程设置与教学内容、教学方法和教学手段等方面进行改革。因此，新的一轮课程设置

方面的研究正成为热点之一。同时，我国的本科外语教育正在制定国家质量标准，要求各高等学校在国家质量标准的基础上制定与学校定位一致的学校标准。中韩比较的“他山之石”会为我国的课程设置研究特别是各学校的“校标”制定过程提供很好的学术参考，为中国日语教学改革做出贡献。

教育部外国语言文学类教学指导委员会副主任委员
日语专业教学指导分委员会主任委员 博士生导师

修刚

2014 年 6 月

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

序 2

刊行に寄せて

席娜さんの釜山外国語大学博士学位論文が刊行されるに当たり、指導教員として祝辞を述べたいと思います。

席娜さんは中国の天津外国語大学と韓国の釜山外国語大学の博士養成プログラムの初の院生として、2009 年 9 月に釜山外国語大学日語日文学科博士後期課程に入学しました。日本に次いで、第 3 国で日本語教育について研究し始めたのです。

院生として 2 年間の研究期間を経て、2011 年 9 月からは「中韓の外国語大学における日本語専攻のカリキュラムの比較研究」というテーマで、博士論文の作成に向けて本格的な研究活動を継続し、2012 年度に博士学位論文を提出し、2013 年 2 月に博士学位を取得しました。

韓国語がまったくわからない席娜さんは、初めて釜山へ来た時、非常に不安だったそうです。その時、韓国で日本語を共通語として授業を受けたり、生活できたりすることが大変不思議に思えたようです。

これまで韓国で生活してきた 3 年半、日本語学部の先生方及び日本人、韓国人の院生たちと仲良くなり、日本とは異なる韓国の文化や社会、風習などの中で生活してきました。また、非母語話者と日本語でのコミュニケーションを通し、韓国人の目

から見た日本及び韓国での日本語教育の発展、特色など幅広い知識を得ることもできました。

そのため、席娜さんはより広い視野を持ち、日本以外の多様な文化にも目を向け、これまでの中日、韓日といった枠組みを超え、世界という新しいフィルターを通して見る日本そして自国を意識し、柔軟に多角的に物事を捉える「ソト」へ意識を移行させる教育が求められるということに気づきました。

そこで、博士論文として、席娜さんは日本の他、日本語教育が盛んな第3国で日本語を勉強する国際交流の開発に着目し、中韓の外国語大学における日本語専攻のカリキュラムの比較研究を通し、互いに長所を取り入れ、短所を補い、今後の中韓両国の日本語専攻のカリキュラムの充実と合理化及び教育水準の向上を図っていくことを研究目的としました。

このように国際的な視点を持つことができたことを指導教員として大変うれしく思います。席娜さんの研究を通して、これから中日韓が連携し、合同学位取得を可能にする共同養成プログラムが確立されれば、異文化コミュニケーション能力を有する国際的な日本語専攻の人材育成を実現できると大いに期待しています。

韓日日語日文学会会長
韓国釜山外国語大学日本研究所長
日本語学部教授
鄭起永

2014年4月釜山にて

前　言

今天的高等教育正发生着深刻变革，保障教育教学质量，创建一流大学是高校面临的重要课题。“培养人才”是高校的一项最基本社会职能，其核心在于课程。本科课程在高校人才培养上占有特殊地位，一方面在于它是连接中等教育与研究生教育的桥梁，另一方面也是为本科学生进入社会生活作准备的基础。

21 世纪以来，中韩两国日语专业的人才培养进入了一个崭新的阶段。各方都在努力寻求既有扎实的基本功，又有充实的专业知识和应用技能的日语专业人才。大学面对社会这一需求，也在积极地进行各方面的教学改革与实践，构筑和提供适应社会需求的充实的课程体系则显得尤为重要。因此，本研究试通过中韩两国在大学日语专业教育理念与目标、教学计划、教学大纲等方面的比较研究，发现中韩两国在大学日语专业课程设置方面的共同点和相异点，从而找出我国高校日语专业课程设置的问题所在，取长补短，相互借鉴，为我国高校日语专业课程设置的充实化和合理性以及教育水准的提高提供可参考性建议，从而为制定既有扎实的基本功，又有充实的专业知识和应用技能的日语专业人才培养模式的理论研究提供事实依据。

近年来，随着国际交流密度的大幅度提高，特别是东亚地区的中日韩三国在政治、经济、文化、教育等多方领域的交流合作，使三方关系更加紧密。随着海外留学需求的不断扩大和大学间互认学分的国际交流的发展，各大学多开展 2+2、3+1 模式的合作交流项目。目前中韩两国日语专业这种大学间的派遣主要是派往日

本的相关合作院校。但随着不只是了解日本、理解日本，而是渐渐地将视野扩大到日本以外，接触多样的文化，由此超越中日、韩日框架，通过其他国家地区的新的视角来观察日本、感知本国，从而能够从多角度来捕捉事物，培养由内而外意识的教育模式的提出，今后中韩两国日语专业大学间的国际合作交流项目将有望从 2+2、3+1 模式向 2+1+1，即 2 年在本国、1 年在日本、1 年在第 3 国（中国或者韩国）的方向发展，并且笔者大胆地预测在日语教育盛行的第 3 国进行日语的学习交流活动将成为今后日语教育的一个新的发展方向。因此本研究还着眼于在日语教育发达的第 3 国，即非目标语言国家进行日语的学习交流，通过海外日语学习者人数居于世界 1、3 位，把日语教育同视为外语教育，在日语教育方面有重要影响力的中韩两国在本科生课程设置方面的比较研究，提出适用于中韩两国日语专业人才共同培养模式的新的课程设置方案，对完善我国高校日语专业人才培养模式体系方面以及海外日语学习发达国家之间日语专业人才共同培养模式的开发方面具有重要的实际意义。

为了达到上述的研究目的，本论文采用如下的方法进行研究论证。

1. 对日本海外的日语教育和中韩高校的日语教育进行较全面的梳理、综述。

2. 以中韩高校日语专业课程设置的先行研究和参考文献为中心，在论述课程设置的定义和理论背景的基础上，列举出先行研究的问题点，并阐明本课题研究的目的、对象、方法。

3. 在阐述中国大学日语专业《教学大纲》的基础上，以中国的 4 年制外国语大学中具有国家特色的日语学科，即北京外国语大学、北京第二外国语学院、上海外国语大学、天津外国语大学和大连外国语大学的日语专业作为研究对象，以 2012 学年度（2012 年 9 月～2013 年 7 月）教学计划和教学大纲中的课程名称、

学期、学分、课程目标、课程内容等作为分析对象，运用比较分析法透视本科课程现象，把握中国高校日语专业课程设置的本质特征。

4. 通过对韩国最具代表性的2所4年制外国语大学，即韩国外国语大学、釜山外国语大学日语专业2012学年度（2012年3月～2012年12月）教学课程进行的分析、比较，把握现阶段韩国高校日语专业课程设置的本质特征。

5. 通过上述的比较研究，从课程设置的目的、对象、内容三方面阐明中韩两国日语专业本科生课程设置的异同，从而通过韩国高校日语专业课程设置给我们带来的启发，发现我国高校日语专业课程设置的问题所在。并为了中韩两国在日语专业人才培养方面的合作交流，提出适用于中韩两国日语专业人才共同培养模式的新的课程方案，并为今后海外日语学习发达国家之间日语专业人才共同培养模式的开发提供可行性建议。

（1）教育理念指导教学实践，提出以“跨文化交际为目的的日语教育”这一新理念。

（2）在新理念的指导下，将新课程类型分为研究志向型的“研究型课程”和一般就业志向型的“应用型课程”。

6. 最后对本研究的概略进行总结，并阐明今后的研究方向。

课程设置研究是一个近些年来新兴的研究领域，由于本人学识有限，虽然付出了诸多努力，还有许多不足之处。恳切希望各位导师、日语同仁以及读者予以指正。本研究在构筑中韩两国更加充实的日语专业课程体系方面还任重而道远，希望本研究可以作为实现适用于中韩两国日语专业人才共同培养模式的新的课程体系所迈出的第一步。

著者于2014年春

目　次

第一章　序論……1
1.1　研究の目的……1
1.2　研究の対象と方法……5

第二章　世界の日本語教育と中韓の大学における
日本語教育の現況と課題……9
2.1　はじめに……9
2.2　世界の日本語教育……9
2.3　中国の大学における日本語教育……16
2.4　韓国の大学における日本語教育……28
2.5　まとめ……37

第三章　中韓の大学における日本語教育のカリキュラムに
関する先行研究……40
3.1　はじめに……40
3.2　カリキュラムの定義と理論的背景……40
3.3　中国の大学における日本語専攻のカリキュラムに
関する先行研究……46
3.4　韓国の大学における日本語専攻のカリキュラムに
関する先行研究……49
3.5　まとめ：先行研究の問題点と本研究で
究明したいこと……50

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

第四章　中国の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラム…… 52
4.1　はじめに…… 52
4.2　中国の大学日本語専攻の「教学大綱」…… 53
4.3　北京外国語大学日本語学科のカリキュラム…… 63
4.4　北京第二外国語学院日本語学部のカリキュラム… 76
4.5　上海外国語大学日本文化経済学部の
カリキュラム…… 96
4.6　天津外国語大学日本語学部のカリキュラム…… 108
4.7　大連外国語大学日本語学部のカリキュラム…… 130
4.8　まとめ：中国の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラムの特徴…… 143

第五章　韓国の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラム…… 147
5.1　はじめに…… 147
5.2　韓国外国語大学校における日本語専攻の
カリキュラム…… 148
5.3　釜山外国語大学校における日本語専攻の
カリキュラム…… 168
5.4　まとめ：韓国の外国語大学における
日本語専攻のカリキュラムの特徴…… 191

第六章　中韓の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラムの異同と提案 …… 195
6.1　中韓の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラムの共通点…… 195
6.2　中韓の外国語大学における日本語専攻の
カリキュラムの相違点…… 198

6.3　中韓両国の相互交流と新カリキュラムの提案・・・ 202

第七章　結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214

7.1　本調査の概略と結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214

7.2　今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 218

参考文献・・ 221

第一章　序論

1.1　研究の目的

周知のとおり、世界人口の中では、英語を話す人口の割合が一番大きい。しかし、この状況が少しずつ変化してきているというのも事実である。イギリスの言語学者が最近の調査報告で分析したように、英語が世界言語になるという見方はすでに疑問視されている。世界人口の中では英語を母語とする人口の割合が下がりつつあるが、その反面、むしろ第2言語として使われる割合は高くなっている。現代言語教育の立場から言えば、英語教育の主な貢献は2つの言語、あるいは多言語を話せる新しい世代を養成したことにあるのだが、その反面英語しか話せない人間は多言語社会に溶け込むのがなかなか難しいことに気づくだろう。これからも英語は依然として使用人口の最も多い言語であることには間違いないであろうが、世界が多元的に発展しているのと同様に、言語の発展の多元化もまた人間社会発展の必然の成り行きとなろう[①]。現代、中国においても、韓国においても、言語社会の多元化の徴候が見られる。両国における英語教育の発展と伴い、日本語教育の発展も、一側面からこ

---

① 宿久高（2008），「中国における日本語教育と課題」，『日本言語文化研究——日本学枠架与国際化視角』，pp. 4.

のことを物語っていると言えよう。

国際交流基金2009年の調査[①]によると、海外日本語学習者数は、韓国が最も多く964,014人となっており、世界全体の学習者数 3,651,232 人に対して韓国の学習者数が占める割合は26.4%となっている。次いで中国が827,171人、22.65%となっている。しかし、2012年7月に発表した国際交流基金の最新の調査[②]によると、中国が2009年の前回調査と比べて26.5%増の105万人弱で、韓国を抜いて初めて第1位となった。韓国が第3位に下がった。それにしても、韓国は日本語教育現場での重要性と影響力を動揺することはない。現在、日本語学習者数は中国、韓国などの国、地域では英語に次ぐ第2位となっている[③]。このような状況の下、多くの日本語研究者も、とりわけ、同じアジアにある中国や韓国における日本語教育に強い関心を向けている。それは日本語を外国語とする両国における日本語教育が他の国と比べ、はるかに高い成果を上げているためであると思われる。そのため、海外日本語学習者数1位の中国と3位の韓国における日本語教育の比較研究が必要となってくる。しかし、今まで中日、あるいは韓日の日本語教育に関する論文はすでに数多く公表されているが、実際に近隣の中国と韓国における日本語教育の比較研究はほとんどない。

また、21世紀に入り、中国でも、韓国でも日本語専攻の人材養成は新たな課題となった。過去の日本語教育のあり方を素直

---

① 国際交流基金日本語国際センター（2011),『海外の日本語教育の現状——日本語教育機関調査・2009年』による。

② 国際交流基金（ジャパンファウンデーション）が2012年度に実施した「2012年度　日本語教育機関調査」の結果報告書による。

③「国際社会における日本語についての総合的研究」(平成6～10年度，研究代表者：水谷修）の一環として行った「日本語観国際センサス」と称する国際比較調査の結果による。

に反省してみると、その内容はかなり言語そのものを目標としたものであったと水谷修氏（2008）は述べている。学習者の日本語習得の目的が経済的な活動であったにせよ、日本社会の中に融けこんで生活できるコミュニケーション能力の獲得であったにせよ、言語的基礎能力を強調するあまり、言葉そのものに関する知識や技能の習得が目標になりがちであったと水谷修氏（2008）は述べている①。しかし、今は日本語人材の知識構造に対して、しっかりした語学力と充実した教養知識及び実用的専門知識が求められるようになっている②。大学がこのような社会からの要望にうまく対応するために、より充実した日本語教育とそれに係わるカリキュラム体系の構築、及び提供が必要であると言える。従って、本研究は中韓の外国語大学における日本語専攻のカリキュラムの比較研究を通し、互いに長所を取り入れ、短所を補い、今後の中韓両国の日本語専攻のカリキュラムの充実と合理化及び教育水準の向上を図っていくことを目的とする。

更に、21 世紀に入り、国際的交流の密度は大幅に高まり、特に東アジア地域の主要国である中国、日本及び韓国の 3 カ国の政治、経済、文化や情報、教育上の交流は、更にそれらの関係を緊密に結び付けている。現在、学生の海外留学のニーズの拡大や単位互認協定の調印など国際交流の発展などにより、各大学では 3＋1（3 年間自国の大学、1 年間日本の協定大学）、2＋2（自国と日本の大学おのおの 2 年間）の日本派遣が多く実施されている。筆者は大学院生の時、中国の天津外国語大学とその協定大学である日本の名古屋外国語大学の国際交流がきっかけで

① 水谷修（2008），「日本語教育の課題と展望」，pp. 14.

② 李培建（2007），「中国における日本語教育と日本語教材の編成及び使用について」，pp. 212.

交換留学生として、初めて日本へ行って、日本文化を肌で感じながら1年間勉強することができた。1年間だけではあったが、視野を広げ、ネィティブの方々とコミュニケーションができ、日本に対する理解を深め、様々な体験をすることができた。また、博士課程では、中国の天津外国語大学と韓国の釜山外国語大学校[①]の博士養成プログラムの初の院生として、2009年9月から、日本に次いで、第3国で日本語教育について研究し始めた。初めて釜山へ行った時、韓国語がまったくわからない私は非常に不安であった。指導教授の鄭起永教授をはじめ、日本語学部の先生方及び日本人、韓国人の院生たちが優しくしてくれ、暖かく手を差し伸べてくれた。その時、韓国で日本語を共通語として授業を受けたり、生活できたりすることが大変不思議に思えた。先生方と皆様のご配慮のお陰で、初めての韓国生活や研究で疲れた私の心も癒され、新たな活力も得ることができた。この場を借りて、先生方と皆様のきめ細かいご配慮に心より御礼を申し上げたい。韓国で生活した3年間、日本とは異なる韓国の文化や社会、風習などを感じ、非母語話者と日本語でのコミュニケーションを通し、韓国人の目から見る日本及び韓国での日本語教育の発展、特色など幅広い知識を得ることができた。日本へ派遣することなく、日本語教育が盛んな第3国で日本語を勉強する国際交流が今後の日本語教育発展の新しい方向性をもたらせるのではなかろうかと筆者は考えている。日本の文化を知り、理解することはもちろん、日本以外の多様な文化にも目を向け、これまでの中日、韓日といった枠組みを超え、世界という新しいフィルターを通して見る日本そして自国を意識し、

① 日本の大学に相当する。本書では、韓国の各大学の大学名はそのまま引用されることにする。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com